

令和元年度江南市子ども・子育て会議（第1回）

●開催年月日 令和元年5月29日（水）

●場 所 江南市役所 第3委員会室

●出席者 出席委員 9名

会 長	松 尾 昌 之
副 会 長	沓 名 珠 子
委 員	伊 藤 靖 祐
委 員	今 井 敦 六
委 員	景 山 豊
委 員	高 田 和 明
委 員	丹 羽 義 嗣
委 員	藤 岡 和 俊
委 員	近 藤 雅 明

欠席委員 5名

委 員	石 川 勇 男
委 員	藤 澤 薫
委 員	坂 本 奈 々
委 員	笹 瀬 ひと美
委 員	米 嵩 恵 莉 加

説明のため出席した職員

こども未来部長	郷原実智雄
こども政策課長	鵜飼篤市
こども政策課主幹	平野優子
保育課長	大島里美
保育課主幹	矢橋尚子
保育課副主幹	横井貴司
こども政策課副主幹	長谷川崇
こども政策課副主幹	石田哲也
健康づくり課副主幹	脇田亜由美

事務職員 こども政策課書記 古田光明

傍聴人 なし

#### 議題

- (1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について（資料1）
- (2) 第2期子ども・子育て支援事業計画アンケート調査について（資料2）
- (3) 第2期子ども・子育て支援事業計画策定方針について（資料3）
- (4) 平成30年度放課後子ども総合プラン事業の報告について（資料4）

#### 報告

- ・平成31年度4月放課後子ども教室申込状況について（追加資料）

#### 配布資料

- 資料1 江南市子ども・子育て支援事業計画 進行管理
- 資料2 子ども・子育て支援に関するアンケート調査【調査結果報告書】
- 資料3 第2期子ども・子育て支援事業計画策定組織図
- 資料4 平成30年度放課後子ども総合プラン事業報告
- 追加資料 平成31年度4月放課後子ども教室申込状況（4月1日現在）

午後2時00分 開 会

#### 1. あいさつ

#### 2. 議題

- (1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について（資料1）

事務局より説明

質疑

会長 資料の6ページにある養育支援訪問事業については、確保方策の数値に対し実績値が上回っているため、次期の計画において、利用者ニーズへの対応を検討する必要があると思われる。

事務局 確保方策の数値に対し、実績値が上回った事業についてはマイナス表示となり、ニーズが上回っている状況となります。養育支援訪問事業は、子育てに悩みを抱える保護者を対象とした、家庭訪問による相談事業となります。第1期の計画策定時には、量の見込みを8世帯としておりましたが、平成30年度の実績では、36世帯232件と見込みを大きく上回っております。このよ

うに、量の見込みと実績値に差が生じている事業については、第2期の計画策定時に見直しを図ります。

委員 養育支援訪問事業において、子育てに対する不安や支援を求める件数が増えているが、どのような相談が増えているのかお尋ねしたい。

事務局 相談される世帯は育児に不安を抱えており、「子どもの発達に関すること」、「夜泣きに関すること」、「母のメンタル疾患による育児不安」、「若年母からの育児相談」など、様々な内容があげられます。また、相談経路としては、妊娠期から保護者との携わりがある保健センターからの情報提供もあり、保健師と共に支援員が家庭訪問するケースもあります。

会長 悩み事にも色々な種類が考えられるが、例えば「育児に関する知識やノウハウがないので知りたい」とか、「何か困っているとまではいかないが、育児に自信がない」とか、「子育てをすることによって、一人の女性、一人の男性としての楽しむ時間や機会がなくなってしまう」など、具体的にどのような悩みがあるかを説明願いたい。

事務局 例えば「子が言うことを聞かないので、どうやってしつけたらいいか」といった悩みには、手を出すことにならないような対応を、どのようにしたら良いかをお話させていただきます。また、この事業はメンタル不安等により、窓口へ出向くことが難しい相談者へ配慮するため、自宅への訪問回数を重ねる中で信頼関係を築き、相談者の不安を和らげるような事業となります。よって、実績の世帯数に対し、件数が多いのは、定期的に家庭訪問をしている影響が出ていると考えます。

会長 市の窓口サービスを受けることが難しい家庭にとっては、良い取り組みだと思う。

委員 市役所にも来ない、電話もかかってこないという人をどのように把握するのか。

事務局 資料の6ページに乳児家庭全戸訪問事業がございます。この事業は、保健センターの保健師等が市内の乳児のいる家庭を全戸訪問し、子育ての孤立化を防ぐため、その居宅において様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うものとなります。継続的な支援が必要な家庭を把握したときには、こども政策課へ情報提供がされますので、養育支援訪問事業へ繋がる仕組みとなります。

委員 資料3ページの子育て短期支援事業について、実績値が0人となっているが、利用申請が全くなかったのか。

事務局 子育て短期支援事業は、保護者の疾病、冠婚葬祭等の事由で児童を養育できないとき、一時的に児童を泊まりで預かる事業となり、ホームページなどで周知を図っています。昨年度、この事業を利用したいという申し出はございませんでしたが、児童虐待が疑われる家庭の保護者へのレスパイトとして本事業の提案したことはありました。しかしながら、保護者が児童と離れることに対し抵抗感が強くあったことから、利用には至らなかった状況でした。

委員 保育士の離職はどこの自治体でもあると思われるが、近隣他市と比較して江南市はどのような状況か、保育士不足への今後の対応策を含めお尋ねしたい。

事務局 昨年の保育士の退職者は4名でした。保育士を含め働き方改革については、全国的に言われておりますので、その対策として、事務処理の簡素化や事務時間確保のための臨時職員等の採用など、職場環境の改善を施しています。その他にも若い保育士が楽しんでやりがいを持って、長く勤めていただけるよう、働きかけを行っています。

保育士不足の解消に関しては、保育士を養成する学校へのアプローチを始め、ハローワークや就職フェアの活用により、新規採用保育士の確保に努めています。啓発活動としては、江南駅やすいとぴあ江南、市民文化会館、KTXアリーナ等に保育士募集のポスターを掲示し、周知に努めています。また、今年はパート、臨時職員の正職化により、14名の正職保育士を採用

しました。

(2) 第2期子ども・子育て支援事業計画アンケート調査について (資料2)

事務局より説明

質疑

会長

アンケートの調査結果を、第2期計画の量の見込みに反映させ、次回の会議までに形にしていくといったスケジュールでよいか。

事務局

アンケート結果を報告書という形にさせていただきましたので、この結果を分析し、量の見込み及び確保方策を検討した上で、第2期の事業計画を策定して参りたいと考えています。

委員

報告書97ページの「子育てに関して悩んでいること、気になることは何ですか」の設問で、「子どもを叱りすぎている気がする」、「子どもの教育に不安がある」という回答がかなり大きな割合を占めている。子ども達と向き合い、褒めて伸ばそうといったスタンスで関わっているが、この結果からみたところ、関り方について保護者との共有が不十分で、情報発信が不足していたことを反省させられた。

しつけの考え方については、子どもの伸ばし方を含め、保護者と関っていく場を設けなければいけないと感じた。

報告書95ページ「近所や地域の人との付き合いは、どの程度ですか」の設問で、就学児童の回答をみると「ときどき立ち話をする程度」が32.0%となっている。

児童が被害者となる事件が報道されたときには、多くの保護者が子ども達に寄り添い、集合場所に来ている姿を見る。また、保護者同士が立ち話の中で、事件への不安などを語り合っている光景は、近所や地域での付き合いの視点からすると良いことと感じる。今後、学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティースクールを推進していくことになるため、学校が立ち話や近所付き合いが出来るようなプラットホームになれるよう、情報を発信していきたい。

会長

「子どもを叱りすぎている気がする」の数値が高いのは、就学児童に限らず、就学前児童の分野でも同様に捉えて考える必

要がある。子どもが成長していく上で、保護者に対して事の良し悪しを伝えたとき、保護者がそれを自身の子に対して実行に移せるかは、家庭の状況によって違いが生じる。また、指導者の立場から児童や保護者にとって良かれと思った行為が、逆に追い詰めているのではないか、という反省が違う会議でも様々な分野の方から発言あった。このような会議が、自分がやってきたことを見直す機会になると考える。

委員 子育ての部分において気になることで、ゲーム障害というものがある。ゲーム障害は、依存症の1つとして分類されたという報道があった。専門医の意見によるゲーム障害は、アルコール依存症や薬物依存症など、ある程度の年齢に達したところから依存が生じるものと違い、就学児あるいは未就学児に発症するものである。また、全国的にも専門診療機関も少ない現状にある。今の子育てをみると、子ども達を叱ることなく、大人しくさせるためにスマートフォンの動画を見せている。そういった解決をしている方が、このアンケートにおいて悩んでいないと回答されたことを考慮すると、アンケート結果は数字に誤魔化されてしまっているところがある。アンケートの数値ばかりではなく、一つひとつの声を聞きながら、将来の施策を考えていくことが大切だと感じた。

会長 統計調査で把握できることは、ある程度の傾向に過ぎない。個々の児童家庭をサポートしていこうとすると、個別性を抜きにできず、統計調査による把握は限界がある。一方では統計的なデータに基づいた判断をし、もう一方では個別的な意見も見落とさないといった2つの視点をもって、施策を考えなければならない。

### (3) 第2期子ども・子育て支援事業計画策定方針について(資料3)

事務局より説明

質疑

会長 昨年度の市の機構改革による変更点はあるか。

事務局 学童保育と放課後子ども教室の事務が教育委員会の所管となったことから、策定状況を教育委員会において報告し、助言を

いただきます。

(4) 平成30年度放課後子ども総合プラン事業の報告について（資料4）

事務局より説明

質疑

委員より質疑なし

3. その他

事務局より報告

- ・平成31年4月放課後子ども教室の申込状況について

質疑

委員 放課後子ども教室を開室する大半の学校で待機が生じているが、定員枠の拡大予定はあるか。また、法定上の決まりにより、変更できない状況にあるのか。

事務局 定員の考え方は、学童保育の基準を準用し、1人当たり1.65㎡の面積割で算定しています。従って、現状における面積において定員枠を拡大することは困難です。

委員 安全管理員1人当たりの児童数は何人か。

事務局 学童保育であると、40人に対し2名の支援員と決まっているが、放課後子ども教室についての規定はありません。例であげると、古知野南小学校は50人定員に対し、3人の管理員を配置しています。

委員 放課後子ども教室未実施の布袋北小学校、古知野北小学校の開室と、学童保育の6年生までの拡充の見通しはどうか。

事務局 放課後子ども教室未実施の布袋北小学校と古知野北小学校については、現在のところ余裕教室がなく、今後の児童推計等を注視し実施を検討していきます。学童保育については、市の最上位計画である第6次江南市総合計画において、令和5年度までに6年生までの拡大を目標設定しています。課題としては、

支援員不足と実施場所の確保となります。この課題を検討していく上で、10 小学校区で6年生までの拡大となりますと、課題に対応できない施設もございますので、会議などご意見をいただきたいと思っております。また、夏休み期間は、利用者が増加することから、夏休み期間に学年拡大ができる施設からの実施を検討していくことも、視野に入れて進めていきたいと考えています。よって、現状において、具体的な実施年度としては、回答できない状況にあります。

午後3時39分 閉会